

— 原著論文 —

イギリスの就学前・初等音楽教科書における発達の視点
— 歌唱領域を中心として —

小松原 祥子

Developmental Perspectives in British Preschool and Primary Music Textbooks:
Focusing on the Singing Area

Sachiko KOMATSUBARA

要 旨

本稿では、イギリスの音楽教科書 *Kickstart Music* 2021年改訂版の就学前から初等学校修了段階のキーステージ (KS) 2までを対象とし、幼小を通じた「歌唱」「音程」に関わる技能の発達の視点を明らかにすることを目的とした。分析の観点としては、スワニックの提言関わった初版1992年版音楽科ナショナル・カリキュラム (MNC) の到達目標「演奏と作曲の能力」のように歌唱 (演奏) と作曲の能力とを関連させる傾向があるか、また、スワニック (1986) による音楽的発達の螺旋モデル、同 (1994) の示した音楽的活動と音楽理解の構図について考察した。その結果、音楽的発達の螺旋モデルの素材・表現・形式の年齢段階に近い発達の観点と、「歌唱」「音程」セクションの活動において作曲・聴取・演奏を含み、子どもの発達段階に合わせて音素材・表情豊かな特性・形式へと音楽理解が繋がり得る構造、演奏と作曲の能力を就学前から遊びながら育む傾向が明らかになった。

キーワード：イギリス (England) 乳幼児基礎段階 (Early Years Foundation Stage)
初等音楽 (Primary Music) テキスト (Textbooks) 歌唱 (Singing)
発達 (Development)

1. 緒言—研究の背景と目的・方法

イギリス (イングランド) では就学前教育施設及び個人の保育者に義務付けられている統一した法令カリキュラム Early Years Foundation Stage (以下 EYFS) が2008年に導入され、最新版では2021年¹⁾に改訂が行われている。初等学校以上では1992年より音楽科ナショナル・カリキュラム (Music in the National Curriculum、以下 MNC) が導入された。

EYFS の教育プログラムのガイダンスとして、音楽に関しては2018年に『音楽的発達に関する事項 (2018)²⁾』が提示され、月齢に即した音楽的学びと環境構成が示された。

鈴木 (2018)³⁾はこの2018年版における EYFS 「人間としての個人的社会的感情的発達」と

の関連性に着目している。2021年には『発達の課題』（2021）⁴⁾の「表現芸術及びデザイン」の中に0-3歳、3-4歳、レセプションクラスの段階ごとに「子ども達が学ぶであろうこと」「支援の例」がよりシンプルに示された。

藤掛・北野・三村（2014）⁵⁾はEYFS2012年版と初等学校MNC1999年版を検討し、就学前に子ども達が主体となる遊びを通して想像や情景のイメージをもとに音を知覚・感受する経験を土台として、初等学校での具体的な音楽的要素や音の知覚・感受を学修する内容へと繋がっていく傾向を示している。鈴木（2017）⁶⁾はイギリスの音楽教科書キーステージ（以下KS）1（初等学校低学年5-7歳）のクロスカリキュラムの観点と教科としての音楽について論じているが、就学前から初等学校修了段階のKS2（7-11歳）を通したテキスト内容の発展性については分析されていない。

拙稿（2023）⁷⁾では、EYFS2021及びガイダンスの音楽領域において音楽の要素に着目する視点や音楽史の観点が示される等MNCとの繋がりが顕著であることを踏まえ、就学前段階の音楽テキスト *EARLY YEARS FOUNDATION STAGE (AGES 3-5)*（2021）及び初等学校KS1段階の音楽テキスト *Kickstart Music 1 (5-7yrs)*（2021）を対象とし、①4歳から歌唱においてピッチマッチの支援を行い、そのために遊びの中で音楽の諸要素を意識する活動が行われている、②音楽の要素を通してイメージと関連した創作・身体表現・楽器遊びを行う、③多文化の楽曲構造を聴き、創作し、身体表現と組み合わせることでその仕組みを体感する、といった特徴を示した。

EYFS2021年版カリキュラムガイダンス「表現芸術とデザイン」の音楽領域では、0-3歳、3-4歳、4歳以上のレセプションクラス全ての年齢段階で音楽の諸要素を通して音の知覚・感受を促す援助の観点が示されており、4歳からの段階で「音程を合わせる」ピッチマッチを求める支援の観点が顕れる⁸⁾。また、MNC（2013）⁹⁾のKS1、KS2の「ねらい」には「歌い、声を使い、自分自身や他の人と音楽を作り、作曲することを学び、楽器を学び、テクノロジーを適切に使いこなし、優れた音楽の次のレベルに進む機会を持つ」、「音楽がどのように作られ、生み出され、伝達されるかを、相互に関連する面（音程、音長、強弱、テンポ、音色、テクスチャ、構造、適切な楽譜）を通して理解し、探求する」、「学びの目的」としては「質の高い音楽教育は、生徒が音楽を愛し、音楽家としての才能を伸ばし、自信、創造性、達成感を高めるよう、生徒を惹きつけ、鼓舞するものでなければならない。」と記されており、質の高い音楽理解のために音楽の要素を通して技能を高める姿勢が顕著である。

イギリスの音楽教育研究者フィルポット（2022）は、「聴くこと、作曲すること、演奏することの三位一体を基礎とした、イギリス初の音楽ナショナル・カリキュラムは、彼（筆者註：スワニックとティルマン）のC(L)A(S)Pパラメーターの薄っぺらな偽装バージョンであった¹⁰⁾」（p.80.）と述べ、スワニックとティルマンによる音楽的発達の螺旋モデル（Swanwick, K. & Tillman, J., 1986）がMNCの構成に影響を及ぼしたが彼らの理論の本質を踏まえたものではないことを指摘している。

スワニックはMNCの成立過程の論議に加わっており、到達目標を2つにするならば「到達目標1—演奏と作曲：音楽の演奏と作曲の能力」「到達目標2—聴取と価値判断（鑑賞）：音楽

史の知識を含む聴取と価値判断（鑑賞）の能力の発達」という形で構成し、到達目標1に重点を置くべきであると主張した¹¹⁾ (Swanwick, 1992) 結果、到達目標の構成がこれに従ったものとなった。従ってイギリスで初めて導入された1992年 MNC における演奏と作曲の能力は同じ領域として捉えられ、1995年改訂版での楽曲の例示撤廃、大きな改訂のない1999年版、到達目標に沿ったレベル分けが撤廃された2013年版に至るまでその基本的理念が受け継がれていると考えられる。

また、スワニック (1994)¹²⁾は「音楽的活動と音楽理解」について、作曲・聴取・演奏の活動が「形式」「表情豊かな特性」「音素材」についての音楽理解に繋がる図を示している。

ここでの「形式」や「表情豊かな特性」「音素材」は、0-4歳で「素材」4-9歳で「表現」10-15歳で「形式」の段階にたどり着く音楽的発達の螺旋モデルが基盤となっている (Swawick and Tillman, 1986)¹³⁾。

本稿で取り上げる音楽教科書 *Kickstart Music* の初版は2010年であり、2021年に改訂版として出版されていることから、MNC1999年版～2013年版の理念を基盤としている可能性がある。序論部分ではMNCに関する下記のような記述がある。

現在のナショナル・カリキュラムでは、初等教育段階のすべての子どもたちが音楽体験をする権利があることを認めている。この権利の実現は、カリキュラムの他のすべての分野でそうであるように、音楽の専門家でない教師の自信にかかっている。従ってこの本は、一般の教師をサポートするために、以下のような形で作成された。

- ・達成可能な発達の構造を提供する。
- ・教師が自信を深めていく過程で、さらに発展させることができる活動の概要を提供する。
- ・音楽の目的を明確にし、音楽活動の根底にある原理を教師が理解できるようにする。

(Anice P. and David W. 2021a, p. 3.)

このように、音楽を専門としない一般の教師が、様々な発達段階にある「すべての子ども達」に音楽体験をさせるという MNC の基本理念を実現するため、「目的を明確に」し、「発達の構造」や「発展させることができる活動」を明示する構成を取った音楽教科書となっている。

また、MNC (2013) における表現の技能としては「歌い、声を使」うことが明示されており、EYFS2021年版カリキュラムガイダンス「表現芸術とデザイン」の音楽領域における4歳からのピッチマッチを求める支援からの継続・発展性を持たせることが可能である。

従って本稿では、上記のように発達の志向が顕著な LMP Publications の音楽教科書 *Kickstart Music* 2021年改訂版の就学前から初等学校修了段階の KS 2 までを対象とし、就学前 3-5 歳の「歌唱」セクションから初等学校 KS 2 の「音程」を通した発達の視点を明らかにすることを目的とする。分析の観点としては、初版1992年版を根底とする MNC の「演奏と作曲の能力」のように歌唱（演奏）と作曲の能力とを関連させる傾向があるか、また、スワニック (1986) による音楽的発達の螺旋モデル、同 (1994) の示した作曲・聴取・演奏の活動から

音素材・表情豊かな特性・形式への音楽理解とどう関わるかについて考察する。

2. 研究結果

(1) テキストの構成と理念

Kickstart Music の理念としては、前述のように「音楽専科でない教師 (non-specialist teacher in music)」、つまり「一般の教師 (generalist teacher)」を対象としており、全ての教師が「ポジティブな音楽経験を子ども達に与えられる」¹⁴⁾ことを想定している。

就学前のテキストでは、最低限提供されるべきものとして以下のことが挙げられている。

- ・子どもたちが探求し、自分自身を表現する機会
- ・どのような状況でも音を楽しみ、声や身体を使って音楽に反応し、音楽を創造する
- ・適切なパーカッション（チューニングされたもの、されていないもの）を含むサウンドメーカーを利用し、紙、ガラクタ、リサイクルされたもの、人工／自然環境などの素材から音の機会を探る
- ・ビートとリズムの活動や韻を踏むことを通して、内なるビート（拍）とリズムの感覚を養う機会
- ・音を使って自分だけの音楽を作る機会¹⁵⁾

初等学校段階では、「一般の教師をサポートするために、以下のような形で作成された」として、下記のことが挙げられている。

- ・達成可能な発達の構造を提供する。
- ・教師が自信を深めていく過程で、さらに発展させることができる活動の概要を提供する。
- ・音楽の目的を明確にし、音楽活動の根底にある原理を教師が理解できるようにする¹⁶⁾。

また、このテキストの「構造」として、多かれ少なかれ5つのセクションに分かれていることが挙げられた後、「音楽の進行は必ずしも直線的なものではない。異なる順序で使用されることは全く問題ない。特定の活動を終えてから取り組むべき箇所は、そのように記述してある」¹⁷⁾と述べられている。

このように、初等学校段階では「発達の構造」や「発展」を意図したセクションが作成されつつ、どこからでも始められるように構成されている。本稿では、遊びを中心とした就学前段階からどのような技能が組み込まれているのか、音楽表現の中で最も顕著に技能が顕れて来る「音程」セクションに着目して明らかにする。

Kickstart Music の各年齢段階のセクションは次のように構成されている。以下、年齢段階順に表を示す。

表1のように、聴取・リズム・動き・歌唱・探求・創作の順にセクションが構成されている。タイトルとしては技能よりもイメージが中心であるが、その中でも下線部「①聴取」の「高低」、 「④歌唱」の「上下」といった音楽の要素に繋がる観点や、「①聴取」の「ハンドサイン」という表現と聴取の技能が取り上げられている。

表1 就学前3-5歳段階のセクション構成

① 聴取	② リズム	③ 動き
じっとする 演奏と応答 どこにある？ 誰がいるんだ？ 次は誰？ 落ち着いた音楽 立ち位置 周りの音 高低 ハンドサイン	手を叩こう 叩いて叩いて 私のするように ここで演奏する トーキングドラム クネクネ虫 櫓とどんぐり 建物 プファ・トレイン 動物グリッド	ピーターと狼 眠そうな骨 怯える亀 ダンスしよう 準備完了 時計仕掛けのように 動物フェア さあ、行こう 水族館 表情豊かな音
④ 歌唱	⑤ 探求	⑥ 創作
声のウォームアップ 有名な歌を歌う 何のニュース？ 上下 丘陵と沢 出ておいで？ こんにちは、アンジャリ！ 今日は何をした？ エコー 列車は駅に到着	動物のボール 僕らはとても騒々しい ジャンクバンド・ミュージック 全員集合 シェイク・シェイク 優しい太鼓 どの音？ これがその方法だ ブレイクを埋める 一つの音が聴こえる	簡単な記号 調子の良い話 画像シーケンス サウンド・ビルダー 動物クラッカー 代表曲 三匹の山羊 登山道 海辺の音 音からの物語

(Anice P. and David W. 2021a, p.2. より筆者訳出)

KS1 は下記の構成である。

初等学校 KS1 では、就学前と比較すると「③動き」に「指揮」という具体的な技能が取り上げられている。また、①「聴取」の「寒暖／高低」といったイメージと音楽の要素を関連させる項目が現れる。④「歌唱」では就学前は「上下」と記されていたのがここでは④「音程」に「高低」という音楽の要素に直接結びつく用語で挙げられている。

表2 初等学校 KS1 5-7歳段階のセクション構成

① 聴取	② リズム	③ 動き
次は誰？ どれだけ静かにできる？ 長続きさせる 何が聞こえる？ 思い出せる？ かくれんぼ どこにある？ 聴いて、動く 寒暖／高低 音楽を聴く 真似っこ	プレイ&レスポンス リズム小包を渡す 信号機 メッセージ ロリポップス ぐらぐらぐらぐら 曲名を挙げてみよう クラッピング リズムと時計 すべてを揺さぶる トーキングドラム	ストレッチとダンス 指揮 ウェーキー・ウェーキー おじいちゃん、お父さんと息子 怯える亀 リボン ホーキー・コーキー ラクダのコブ 手を合わせる 音楽の動きと雰囲気 ビート・ウォーク

④ 音程	⑤ 音と創造力
自分の声を見つけよう 高低 家のあちこちで 登山 音符を見つけよう ここにいるよ 自分だけの曲を作ろう 釣りに行く 私のリーダーについていこう 幼い子どもたちと歌う よじ登るイモムシ	どんな音？ サウンドボックス 何個の音？ 会話 音を書き留める ストーリーを使う サウンドスケープ 音の絵 サファリパーク 音楽エリア

(Anice P. and David W. 2021b, p. 2. より筆者訳出)

KS 2 の構成は下記の通りである。

KS 2 では、年齢が上がるにつれ、模倣、パターンやエコーといった音楽の形式に関わる観点が頻出する。また、リズムやビート（拍）を感じる機会も増えている。

このように、*Kickstart Music* 目次から読み取れるのは、就学前から KS 2 にかけて音楽の要素を関連させつつ、遊びやイメージを交えながら次第に音楽の形式を意識させる方向へと発展していく構造である。

表 3 初等学校 KS 2 7-9 歳段階のセクション構成

① 聴取	② リズム	③ 動き
「こんにちは」 大丈夫 韻を踏むゲーム 風見鶏 さらに追加する 外 中 コードを破る 鳴りますか？ パーティーゲーム テクニカルになろう 心に描く絵	続ける 寒い？ 休符 電話番号 雨のパターン 音の鎖 リズムセクション リズム・ラウンドをパスする リズムを曲に 泡 デボラ・デローラ	上下に伸びる 私のようにする 動物たち コーディネートしてもらう ビートを見つける 一緒に移動する ビートに合わせて動く 聞く、動く、感じる 時の鉱山 音楽の動きとムード ¹⁸⁾ 歩き回る、スキップ、ジャンプ
④ 音程	⑤ 音と創造力	
注意深く聴こう 声をウォームアップしよう 階段 ビッグ・ベンの鐘の音 聴く、歌う、演奏する 魔法の牛乳瓶 5 音音階 コードを演奏する 歌の伴奏—バス・パート 歌唱力を磨く 3 度	吹く、摘む、叩く 体の音 どんな音が出せる？ 絵を描く 音のイメージ 1 曲演奏する なぜ逆らった？ 記号と音 サウンド・ラウンド 音、曲、リズム 音楽エリア	

(Anice P. and David W. 2021c, p. 2. より筆者訳出)

表4 初等学校 KS2 9-11歳段階のセクション構成

① 聴取	② リズム	③ 動き
音を追う 床の亀 書き留める オーディオ編集 ジングル・タイム 模倣曲 耳で聴いて演奏する サウンドシーケンス 製図法 録音と視聴 返して	続けて 歌のクイズ リズミカルな文章 リズムの層 エコー・クラッピング ビートを刻む 教室でのドラム演奏 教室でのダンス リズムと曲 泡 書き留める	ハンド・シンギング 数字パターン 順序を作る 左足2本 フォークダンス 手と足の太鼓 ストーリーを語る 時の中のボール 連続した動き 旅 叩く、打つ、クリック
④ 音程	⑤ 音と創造力	
ピッチを完璧に 声をウォームアップする 音を形作る 見て演奏する 宝探し 音符に合わせる 2枚のコード曲 モチーフ 音程を歌う 歌の伴奏…和音を付けて 歌の伴奏…ドローンとオスティ ナートを付けて	俳句 動きの <u>パターン</u> 海 反対の気分 音楽のプラン 音の科学 音程と雰囲気 学校展覧会 ¹⁹⁾ キーボードの探究 学校展覧会 音楽エリア サウンドデザイン・テクノロジー	

(Anice P. and David W. 2021d, p.2. より筆者訳出)

(2) テキスト分析結果：就学前から初等学校を通じた発展的観点 3-5歳「歌唱」

「歌唱」「音程」セクションのうち就学前から KS2 を通して継続性が見られるセクションのねらいや内容を検討した結果、就学前から初等学校高学年にかけて「音素材」「表情豊かな特性」「形式」を通じた音楽理解に向かう姿勢と、「歌唱」「音程」の中に活動を通して「作曲」「聴取」「演奏」を行う構造が見られた。

①「音素材」を通じた音楽理解

就学前3-5歳の「歌唱」では、声を音素材として味わう次のような活動が設定されている。

【声のウォームアップ】

ねらい：子どもたちが上手に歌う方法を身につけるのを支援する。

1. アーティキュレーション

- ・「シュ、シュ、シュ」と列車の騒音を出す。
- ・「カッカッカッ」と鶏の鳴き声を出す。
- ・よく発音し、何度も繰り返す子音をたくさん歌ったり言ったりする。— pop, dad, gig, tot, bob, sis,

shush、viv.

一音でタングツイスターを歌う。短く、叙述的なものを試してみよう：Dancing dinosaurs. Loopy lunar landings. Laughing llamas.

2. プレス

- ・サイレンの音を立てる—できるだけ高く上がって、また下がる。
- ・「ハッ、ハッ、ハッ、ハッ」と笑い声を出す。
- ・出来るだけ長く「○○○○」と言う、または歌う。

2. 声のカード

- ・1つの音をハミングする—なるべく長く。
- ・(音程) 階段を上るように、つまり徐々に高くなるように、「○○」と言ったり歌ったりする。
- ・階段を下るように、「AAAAAAA」と言ったり歌ったりする。

(ibid. 2021a, p.35.)

また、「歌唱」セクションの活動として、「作曲」「聴取」「演奏」を行い、「音素材」の活用を通して音楽理解に迫る例が下記の通りである。

②「作曲」「聴取」「演奏」による「音素材」の活用

【エコー】

ねらい：エコー・ソングでレスポンスに参加する。

1. 「フレール・ジャック」に合わせて歌われる有名な歌「雷が聞こえる」を学ぶ。
2. これはエコー・ソングの良い例だ。リーダーが各セリフを歌い、それを子どもたちが繰り返す。

<コール／リーダー>

「雷が聞こえる」

「ハーク、そうだろう？」

「ポツポツ雨粒」

「びしょ濡れ」

<エコー／子ども達>

「雷が聞こえる」

「ハーク、そうだろう？」

「ポツポツ雨粒」

「びしょ濡れ」

3. 子どもたちが自分で返事をするように促すが、子どもたちが嫌がるようであれば、あなたや他の大人と一緒に静かに歌ってもよい。
4. いったん曲ができれば、子どもたちは例えば各フレーズの終わりに効果音を加えることができる。

例：「雷が聞こえる」—ドラム、タンバリンをととても大きな音で

「ハーク、そうだろう？」—ドラム、タンバリンをととても小さな音で

「ポツポツ雨粒」—チャイム・バー、トライアングル、ベル、チューニングされたパーカッションの音など、チャイムやベルの音をたくさん。

「びしょ濡れ」—ジングルベル、マラカス、カスタネット、タンバリンなど、たくさんの楽器を振る。

5. クラスを分けて、1つのグループが効果音を出し、他のグループが歌う。

(ibid., p.43)

この活動では、リーダーの歌を聴いて模倣し、各フレーズの終わりに効果音を加えるという作曲と演奏にわり、効果音という形で楽器を音素材として探求し、様々な創造的表現へと向かう。

(3) テキスト分析結果：KS1 5-7歳

初等学校 KS1 の「音程」セクションでは、下記のような活動を通して作曲・演奏・互いの演奏の聴取が行われ、「表情豊かな特性」を合奏によって味わう仕組みとなっている。

①「作曲」「聴取」「演奏」による「表情豊かな特性」の音楽理解

【自分たちの曲を作ろう】

ねらい：子どもたちに基本的な即興のスキルを身につけさせる。

1. 子どもたちは、クラスの「音楽エリア」で、楽器を挟んで2人1組、または1人で活動する。
2. 用意された2つの音、EとGだけを使い、韻に合う簡単なメロディーを考案する。
3. メロディーを徹底的に練習する。
4. 自分の作曲したメロディーをクラスのみなみに聞かせたい子どもには、そうするように勧める。
5. クラスは、一定のビート（拍）に合わせて膝を叩いて静かに伴奏することができる。この伴奏は、メロディーを弾いている子供にとって繊細で、脅かさないようにする。

(ibid. 2021b, p.47.)

ここでは、自由に音遊びを行える音楽エリアにて、前の活動で行った言葉の韻を踏んでリズムを叩き、それをEとGの3度音程で行うことにより即興的にメロディーを作り出す。そのメロディーを「徹底的に練習する」ことによって「表情豊か」になり、それを互いに聴き合う。その表情豊かなメロディーに拍で伴奏し、あくまでメロディーを際立たせるよう配慮することにより、メロディーの表情豊かな特性を合奏によって味わい、音楽理解へと向かうことができる。

(4) テキスト分析結果：KS2 7-9歳

7-9歳では、下記のような活動によって遊びながら作曲・聴取・演奏を行い、その「表情豊かな特性」を味わうことにより音楽理解へと向かう。

①「作曲」「聴取」「演奏」による「表情豊かな特性」の音楽理解

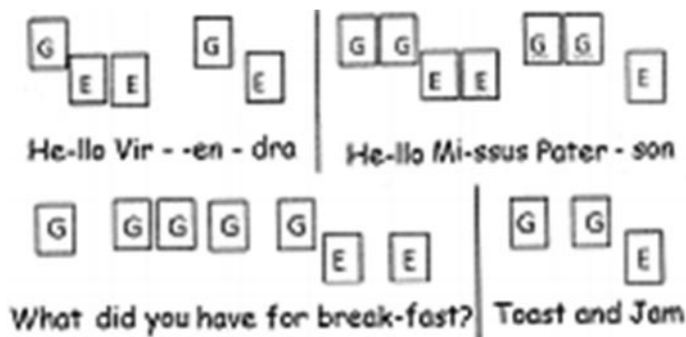
【聴く、歌う、演奏する】

ねらい：子どもたちに歌ったり、演奏したり、異なる音程の音符を書き留めたりすることを促す。

1. 最大6人の子どもたちに、それぞれ異なるチャイムバーを渡す。
2. 教師はチャイムバーの音符のひとつに対応する音をグロックンシュピールで弾く。子どもたちは誰が同じ音符を持っているかを探す。
3. 子どもたち全員が自分の音を耳で聞き分けられるようになるまで何度かゲームを行い、その後、別の

グループの子どもたちと別の音でもう一度ゲームを行う。

4. G と E など、どれか 2 つの音を選ぶ。



5. 問いと答えを一緒に歌ったり、遊んだりする。
6. 2人1組になり、問いと答えを歌ったり演奏したりする。—準備ができれば3音に増やす。
7. それらを書き出してみる。



(ibid. 2021c, p. 45.)

ここではチャイムバーと鉄琴という形で楽器を使った演奏をしつつ、自分と同じ音を聴き分ける力を育てている。問と答えは音楽の構成の一つであり、それを歌ったり遊んだりすることで表情豊かに発展し、それらを書き出すことで音楽の特性である問と答え、音程、四分の四拍子を視覚化して理解することができる。

(5) テキスト分析結果：KS2 9-11歳

①「作曲」「聴取」「演奏」による「形式」の音楽理解

最高学年の9-11歳では、下記のように「音程」セクションでの「モチーフ」を題材とした活動によって、作曲・聴取・演奏が行われている。

【モチーフ】

ねらい：ペンタトニックスケールを使って、子どもたちの名前をリズムにした曲を作る。

1. 子ども達を4人グループに分ける。
2. 子どもに自分達のファーストネームをリズムカルに唱えるよう言い、演奏すべき順番を決める。
3. 子どもたちに自分のビートシーケンスを発表してもらい、子どもたちのビートシーケンスが確実なものであることを確認する。
4. 各グループに楽器を渡し、ペンタトニックスケールの音を使って、自分たちのシーケンスの曲を

作ってもらう。

5. グループを集めて、それぞれの曲を聴く。すべての曲の順番を話し合い、クラス作品を作る。どのグループの曲がうまく作品を始められるか、どのグループの曲が作品を終わらせるべきか、クラスで決める。いろいろな組み合わせを試してみよう。
6. クラス作曲の2つのセクションを同時に演奏してみてください。

(ibid. 2021d, p. 48.)

この活動では、自分の名前からリズムパターンを作り、複数人繋げて順番を決めて演奏し、互いに聴き合うことで拍にはまったリズムパターンであることを確認する。それらを楽器で演奏し、順番を決めて演奏することで作曲ができる、2つのリズムパターンを同時に演奏することでポリリズムができるという音楽の「形式」を体感し、理解することに繋がる。

3. 総合考察—*Kickstart Music* (Revised 2021) 「歌唱」「音程」セクションにおける就学前から初等学校段階の発達の観点—スワニックによる音楽的発達モデルとの関連性

スワニック (1986) による音楽的発達の螺旋モデルでは、0-4 歳、4-9 歳、10-15歳で素材、表現、形式の段階に区切られている。

Kickstart Music の就学前3-5歳の「歌唱」セクションでは「音素材」、初等学校 KS1 の5-7歳、KS2 の7-9歳の「音程」セクションでは「表情豊かな特性」、KS2 の9-11歳では「形式」を通した音楽理解へと向かう活動が構成されており、この螺旋モデルの発達段階に近い構造となっている。

また、スワニック (1994) による「音楽的活動と音楽理解」に関して、*Kickstart Music* のテキストでは、就学前「歌唱」から初等学校 KS2 「音程」セクションを通して、作曲・聴取・演奏が見られた。また、就学前で「音素材」の活用、KS1-KS2 の5-9歳で「表情豊かな特性」、9-11歳で「形式」の理解へと重点が置かれていると同時に、それぞれの子どもの様々な理解度に応じて音素材、表情豊かな特性、形式のいずれか、あるいは全てを通した音楽理解が可能な構造となっている。

そして初年度 MNC の到達目標に関わる「演奏と作曲の能力」は検討した全ての活動において求められており、「作曲」の能力は就学前の段階から遊びながら育む傾向があることが明らかになった。

今後の課題としては、就学前の「聴取・リズム・動き・探求・創作」、初等学校段階の「聴取・リズム・動き・音と創造力」の全セクションを含めてこれらの原理がどのように構造化されているのかを検討することである。

<付記>

本研究は、行吉学園2023年度教育・研究助成費 No. 2023-36 研究課題「EYFS 導入後のイギリス就学前・学校音楽教育における音楽の諸要素を軸としたアプローチ—幼児・初等・中等教育接続の観点から—」の助成金を受けたものです。

<註および引用文献>

- 1) Department for Education (2021) *Statutory framework for the early years foundation stage-Setting the standards for learning, development and core for children from birth to five*, <https://www.gov.uk/government/publications/early-years-foundation-stage-framework-2> (最終アクセス2022年9月19日)
- 2) Burke, N. (2018) *Musical Development Matters in the Early Years*, The British Association for Early Childhood Education.
- 3) Atsuko, S. (2018) 'How Music Supports the Personal, Social and Emotional Development of Younger Children (3-5 years old) in England: The Educational Impacts of New Musical Development Matters (2011)' 東北福祉大学教職課程支援室『教職研究』(2018), pp. 13-28.
- 4) Department for Education (Revised July 2021) *Development Matters-Non-statutory curriculum guidance for the early years foundation stage* <https://www.gov.uk/government/publications/development-matters-2> (最終アクセス2022年9月19日)
- 5) 藤掛絢子・北野幸子・三村真弓 (2014) 「音楽領域における幼小接続カリキュラムの検討—イギリスとアメリカの比較を中心に—」『国際幼児教育研究』2014, Vol. 21., pp. 17-25.
- 6) Atsuko, S. (2017) 'Benefits and Infinite Possibilities of Musical Activities in Cross-curriculum Teaching of Key Stage 1 Pupils (5-7 years old) in England: How It Plays Different Role from Music as Subject', 東北福祉大学教職課程支援室『教職研究』2016, pp. 19-33.
- 7) 小松原祥子 (2023) 「イギリスの就学前・初等音楽教育における音楽の諸要素を軸とした指導法—EYFS2021とMNCに基づいた教科書分析—」神戸女子短期大学『論攷』第68巻 pp. 13-24.
- 8) Department for Education (Revised July 2021), *ibid.*, p. 124
- 9) Department for Education, *Music programmes of study: key stages 1 and 2 National curriculum in England*, September 2013.
本稿で対象とする *Kickstart Music* は2021年改訂版であり、MNC2013年版に沿っている。
- 10) Philpott, C. (2022) "The sequence of musical development and its place in Swanwick's meta-theory of music education: a personal response" *British Journal of Music Education*, 39, pp. 80-91.
- 11) Swanwick, K. *Music Education and the National Curriculum*, London: the Tufnell Press, 1992, pp. 29-31.
- 12) Swanwick, K. (1994), *A Basis for Music Education*. London: Routledge.
- 13) Swanwick, K. & Tillman, J. (1986). The sequence of musical development: A study of children's composition. *British Journal of Music Education*, 3(3), pp. 305-339.
- 14) Anice P. and David W. (2021a), *Kickstart Music Early Years (3-5yrs)*, Dingley: LMP Publications, p. 3.
Ibid. (2021b), *Kickstart Music 1 (5-7yrs)*, p. 3.
Ibid. (2021c), *Kickstart Music 2 (7-9yrs)*, p. 3.
Ibid. (2021d), *Kickstart Music 3 (9-11yrs)*, p. 3.
- 15) *Ibid.* (2021a), *Kickstart Music Early Years (3-5yrs)*, p. 3.
- 16) *Ibid.* (2021b, 2021c, 2021d)
- 17) *Ibid.* (2021b), *Kickstart Music 1 (5-7yrs)*, p. 3.
- 18) 目次と本文が異なるため、本文の項目タイトルに揃えた。
- 19) 同上。